

1. 件名：「日本原燃(株)での原子力安全、核セキュリティ及び保障措置（3S）のインターフェースにおける取組強化に係る面談」

2. 日時：令和5年10月17日（火） 10時00分～12時20分

3. 場所：原子力規制庁 10階会議室（TV会議により実施）

4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部

核燃料施設審査部門

（原子力規制部新基準適合性審査チーム）

古作企画調査官、大橋上席安全審査官、新井安全審査官、小野安全審査官、
上出安全審査官、山口係員、横山原子力規制専門員

放射線防護グループ

放射線防護企画課 保障措置室

寺崎保障措置室長、古川総括補佐、中島査察官、山口係員

核セキュリティ部門 1名

六ヶ所原子力規制事務所

皆川事務所長

日本原燃株式会社

再処理事業部 核物質管理部長 兼

燃料製造事業部 燃料製造建設所 部長 他1名

再処理事業部 核物質管理部 核物質管理課長

燃料製造事業部 燃料製造計画部 核物質管理 GL

再処理事業部 再処理工場 技術部 保安管理課長

濃縮事業部 ウラン濃縮工場 濃縮運転部 運営管理課長 他1名

安全・品質本部 品質保証部 品質保証 GL

再処理事業部 再処理工場 前処理施設部 前処理課長

再処理事業部 再処理工場 電気保全部長

再処理事業部 再処理工場 機械保全部 前処理機械課長

5. 要旨

(1) 令和5年10月3日の面談を踏まえ、日本原燃株式会社（以下「日本原燃」という。）から、3Sのインターフェースにおける取組状況及びセル内照明の全消灯事象に係る報告書の検討状況について、当日の提出資料に基づき説明があった。

(2) 原子力規制庁から、主に以下の点を伝えた。

- ・ 3 Sのあるべき姿の整理については、各職位の自らの分野における役割を網羅的に示した上で、全消灯事象に係るタスクを事例として、共用設備の維持管理など、他分野とのインターフェースにおける役割を具体的に整理すること。
- ・ 今後の対策方針として、3 Sの連携を考慮したマネジメントシステムを構築する際には、有効かつ効果的なマネジメントレビュー等のあり方について検討すること。
- ・ 濃縮事業部及び燃料製造事業部での取組強化に向けたスケジュールについても整理して示すこと。

(3) 日本原燃からは、本日の面談を踏まえて対応する旨の発言があった。

6. その他

提出資料

「3 Sインターフェースに係る検討の進め方」

参考

- ・ 令和5年10月3日 日本原燃(株)での原子力安全、核セキュリティ及び保障措置(3 S)のインターフェースにおける取組強化に係る面談

<https://www2.nra.go.jp/data/000453105.pdf>